



## 台湾攀岩情報 Rock Climbing In Taiwan

By RCT 2010/11/18



### <はじめに>

台湾のフリークライミング情報については、「龍洞」が「岩と雪 148号」1991年10月号に掲載されたが、その後の情報は皆無といっても過言ではない。故に日本のクライマーにはあまり知られておらず、登りに行ったという話も聞いていない。岩場の好みもあるだろうが、殆んど日本から登りに行かないのは、アクセスが分からない、岩場のトポが手に入らないのでどのようなルートがあるのか分からない、等々、情報不足からくるものではないかと思われる。

今回、2010年10月、近場の海外でトラッドクライミングをしようと思い、韓国の「インスボン」も考えたが、行ったことのない国ということで台湾ということになった。ネットで「龍洞」の情報を検索しながら探すうちに、不完全ではあるがトポも幾つか手に入り、岩場までのアクセスもバス会社のページで確認することができた。意外にも、同じ漢字圏ということが役立ち、情報を得やすかったのは幸運であった。例えば韓国であれば、ここまで情報が上手く集められなかったのではないだろうか。

出発前に、日中関係が微妙な状況の下で、対日感情悪化が危惧されたが、台湾の方々にはとても親切に対応していただいた。首都台北は、街も道路も駅もトイレもきれいで、人柄も落ち着いており、電車では若者が席を譲ってくれ、ファッションセンスも非常に良い。教育レベルの高さや経済成長の豊かさに因るものなのか、台湾人のマナー意識や素養の高さが感じられた。

これ以上日中関係が悪化しないよう望むとともに、今回登れなかったラインや岩場も沢山あるので、また機会をみて訪れたいと思っている。

なお、「龍洞」の読みであるが、「Long Dong」、「Lung Dung」、「Lone Dome」、「Lung Tung」、英語で「Dragon Cave」、等、いろいろあるようなので、自分なりに確認していただきたい。

### <一般的情報>

#### ●台湾のフリー・クライミング・エリア

Google Mapによる、台湾クライミングエリア 情報

<http://www.asahi-net.or.jp/~ca7s-kbys/taiwan2/taiwan2.html>

#### ●トポ集

登山用品店に「龍洞伝統攀登」というトポ集がまだ置いてあるようだが、内容的には一昔前のトラッド・ラインが載っているだけで、スポーツルート(ボルト・プロテクション)の新しいラインは載っていない。近々「Rock Climbing Taiwan by Matt Robertson」という、トラッドとスポーツルートの殆んどを網羅したガイドブックが発刊される予定とのこと。現在、「龍洞」については、北部の「校門口」から「音楽廳」あたりまでと、「大洞」、「黄金谷」、「後門」の一部のライン情報をネットから得ることができる程度である。他のエリアについては、「大砲岩」、「碧山小岩場」、「関子嶺」、「壽山」等が何とか手に入る。

なお、台湾も漢字を使用しているが、クライミング関係の言葉は、例えば、「岩登り」は「攀岩」、「ルート」は「路線」、「ボルダリング」は「抱石」、「クラック」は「裂隙」、「アレート、カンテ」は「角」、「凹角、コーナー」は「内角」、「自然の岩場」は「天然岩場」、等となっているので理解しやすい。

#### ○トポ

●大砲岩&龍洞岩場 路線図 [http://www.taiwanrock.50webs.com/lungtung\\_old\\_topos.pdf](http://www.taiwanrock.50webs.com/lungtung_old_topos.pdf)

●大砲岩 (BIG CANNON CLIFF) [http://www.taiwanrock.50webs.com/big\\_cannon\\_cliff\\_guide.pdf](http://www.taiwanrock.50webs.com/big_cannon_cliff_guide.pdf)

#### ●クライミング・ギア・ショップ

クライミングに使用する一般的なギアは、メーカーを選ばなければ登山用品店で殆んどが手に入る。重いロープなどは、何でも構わなければ、現地調達が良いのではないか。台北駅近くの、忠孝西路一段と中山北路一段の交差点付近には、登山用品店が幾つか並んでおり、遅くまで営業しているので、帰ってきて

から、情報を手に入れたり、必要なものを購入できる。

現在、円高ということもあり、日本で購入するのと同じものが3～4割安く購入できる。この登山用品店の並びの中で、「登山友」というところは、登山関係とクライミング関係の店が分れており、クライミング用品が充実している。どちらかの店には日本語の話せるスタッフ（店長？）もいるので、分からないことがあったら訊いてみると良い。

ちなみに、カム類では、キャメロットはあったがメトリウスはなし。靴では、ファイブ・テンはあったがスポルティバは置いてなかった。

ところで、地元のクライマーは安全のためヘルメットを持参していた。岩は凹凸が多く、平面的な壁と違い墜落時などは岩角などにぶつけやすくより危険なためであろうが、トラッドの場合、心配なら持参することを薦めたい。

### ●宿泊・食事・買い物

今回の宿泊は「天成大飯店（コスモス・ホテル）」（朝食付き）を利用した。このホテルは MRT 台北地下鉄台北駅 3 番出口の直ぐ近くにあり、龍洞はもとより台湾各地へのアクセスが便利な、台北西 A バスターミナルへも歩いて 5 分程の距離にある。また、ここは忠孝西路と中山北路との交差点付近に並ぶ幾つかの登山用品店へも至近距離にあり非常に便利である。

ホテルの室内は意外と広く明るく清潔感がある。洗面台、トイレもきれいでシャワー付きのバスバブがある。TV、冷蔵庫、エアコン、歯ブラシ、石鹸、シャンプー、ボディローション、髭そり、そして LAN コネクター、毎日飲料水 1L のサービス・・・と一通り揃っており、従業員の対応も良い。ロビーはさほど広くはないが、フロントは日本語対応可能で、観光地以外の場所への行き方も丁寧に調べてくれる。台北駅とバスターミナルに近い手頃なホテルとしては、他に「シーザー・ホテル」や「華華大飯店」などがあるが、今回は口コミ評判の良い「天成」にした。食事は、何処でも美味しいものが食べられる。近くでは、台北駅南から西門にかけての繁華街、台北駅付近の地下街、そして、中山の天津街なども歩いて行ける。さらに MRT を使えば、士林や龍山寺の夜市へもすぐである。

買い物では、クライミング日の昼食などは、適当にコンビニなどやターミナル内のお店で購入できる。ホテルの近くでは大きなスーパーなどは見当たらなかった。「龍洞」では岩場の入口にちょっとしたお店があるが、欲しいものがあるかどうか分からないので、台北で購入していった方が良い。お土産等については、観光ガイドなどを参照してほしい。お土産では、パイナップルケーキが人気とのこと。

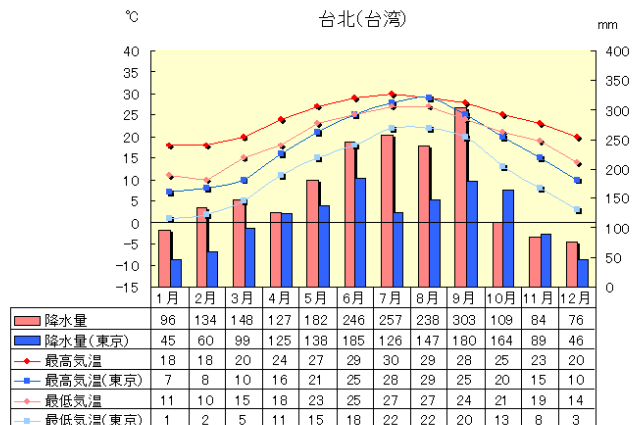
### ●気候とクライミング・シーズン

台湾の気候は中央に北回帰線が通っており、「亜熱帯性気候」である。確かに晴れると暑いですが、台北辺りは一年中天気安定せず雨や曇り空も多いらしく、秋から春までは寒い日も多いというので、長袖や長ズボンを持参したい。知人に聞いたところでは、台中や台南、高雄は、夏は台風などで雨が多いが、台北よりずっと天気安定しているとのこと。

台北の天気は最も安定しているのは、観光協会によると、3月から4月にかけてとのことだが、いずれにしても、雨が降ることを想定して出かけた方が良さそうだ。

晴れた日の「龍洞」でのクライミングは、非常に暑い。特に壁が全体的に東向きのため、時間帯は午後の方が日陰になる壁が多く、現地のクライマーも日陰になった壁に移動しながら登るようである。いずれにせよ、熱中症にならないよう多めの飲料水を持参したい。

右の図は台北の各月の気温と降水量を東京都と比較したものである。グラフでは冬場に降水量は少ないが、天候は不安定とのことなので、あまり期待はできない。「岩と雪」の解説では、秋から春は雨季で雨が多く、夏場は夕立が多いが乾きやすいので、登るには良いシーズンとのこと。



## ●クライミング・ジム

今回クライミング・ジムには行く機会がなかったので具体的な情報はない。ネットで検索すると幾つかの情報が得られるので、興味のある方は行ってみてください。

●indoorclimbing.com

<http://www.indoorclimbing.com/taiwan.html>

<http://www.wretch.cc/blog/p123377865/13813069>

## ●クライミングおよび観光情報サイト

以下、参考になりそうなサイトを紹介。サイトからトポも手に入る。念のため、ダウンロード時はセキュリティ対策を万全にしてください。

<http://www.climbstone.com/index.htm>

<http://www.taiwanrock.50webs.com/>

<http://www.climbing.org/index.php>

<http://rocknwall.com/tw/m/rock/twn/n/ld/ld.html>

<http://web2.cc.nctu.edu.tw/~mclub/meichu/>

[http://www.wretch.cc/blog/p123377865&category\\_id=11610033](http://www.wretch.cc/blog/p123377865&category_id=11610033)

<http://www.kingbus.com.tw/index.php>

<http://www.go-taiwan.net/index.html>

## ●蚊除け対策

今回、クライミングをした場所では、蚊取り線香の必要性を感じなかったが、一応持参するに越したことは無いと思われる。

## ●コンセント・プラグ

日本と同じAタイプが使える。電圧も110Vなので日本の電化製品は変圧器無しでそのまま使用できる。今回宿泊したホテルのコンセントは、右の写真の様なもので、Aタイプの他に、OやBFタイプ等、いろいろなタイプに対応しているようである。



## <龍洞岩場情報>

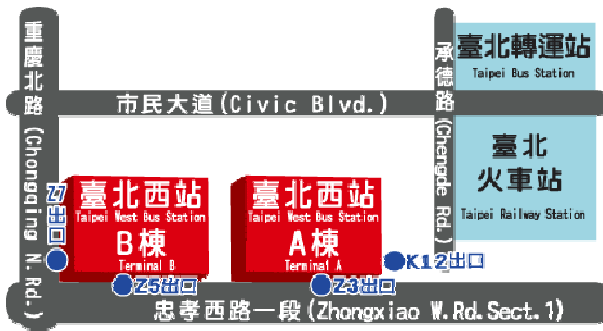
### ●アクセス

龍洞に行くには、國光客運の直通バス利用が一番便利である。台北西駅Aバスターミナルにて、羅東宜蘭方面行き（濱海公路経由、発車時刻 8:20、9:20、10:20）の切符を購入（片道110元）し、6番で1811のバスに乗車する。バスは高速道路で基隆まで行き、その後海沿いの濱海公路を走り、約1時間強で「龍洞湾」バス停（山側に寺がある）に着く。

写真：左上から、台北西駅Aバスターミナル、バスターミナル内、切符売り場、出発場所番号は「6」1811の羅東行きに乗る。下はターミナルの地図。行き先によりバス会社が異なる。



民國99年元月20日正式為您服務



### 臺北西站A棟 (原國光客運臺北東站)

國光客運--桃園國際機場、中壢、桃園、羅東(南方澳)、基隆、金山  
 大有巴士--南崁、桃園國際機場、大園  
 建明客運--中壢  
 三重客運--林口長庚醫院、竹林山觀音寺、楊梅、埔心牧場  
 新竹客運--楊梅、埔心牧場  
 汎航通運--林口長庚醫院、桃園龜山

### 臺北西站B棟 (原國光客運臺北西站)

國光客運--臺中、南投、埔里(日月潭)、彰化(員林)、嘉義(阿里山)、  
 臺南、高雄、屏東。

その後のアプローチは、バス停から階段を下り右へ。海岸通りに出て右へ、龍洞湾の向こうに鼻頭角が遠望できる。すぐに「和美國小」に到着。ここでトイレを済ませる。道を挟んで小さなお店もある。台湾のクライマーはここまで車で入る。ここから海沿いに進むと、「龍洞攀岩場」の標識があり、そこから5分程で「校門口」の岩場に着く。



そこから赤ペンキを頼りに進むと右に「双鐘塔」をみて、その先に「横渡」があり、古いロープが張ってある。その先が「長巷」手前の大テラス、さらに「獨木橋」を渡り「音楽廳」に着く。ここも大テラスで、釣り師も多い。「和美國小」から「音楽廳」まで30分弱というところ。

復路は、来たアプローチを戻り、バス停で、できたら國光客運の「台北行」を拾う。バス停時刻は18:00だが、冬場は日が暮れるのが早いので、待ち切れなければ、基隆客運の「基隆行き」に乗り、基隆から鉄道を利用する手もある。乗り換えが面倒なら、遅くとも「台北行」に乗るのが良い。往路同様1時間程度で戻れるので、夜の食事や観光を考えると、基隆や龍洞に宿泊するより、台北から往復がベストと考えられる。

### ●Emergency-Kit (イマージェンシー・キット)



龍洞岩場の何か所かに、事故時の救援案内板が設置されている。救援資材の置場、救援ルート、救援方法などが表示されている。事故を起こさないのが一番だが、もし起こってしまった場合の連絡方法などが書かれているので、必読のこと。

右の写真は、難所「横渡」で古いロープが張ってある。足場も手がかりも良いので、ロープに頼らず落ち着いて行けば大丈夫だが慎重に。



## ●龍洞岩場概要

<岩雪 148 号の Jeff Wang 氏の図を借用> (一部訂正追加)

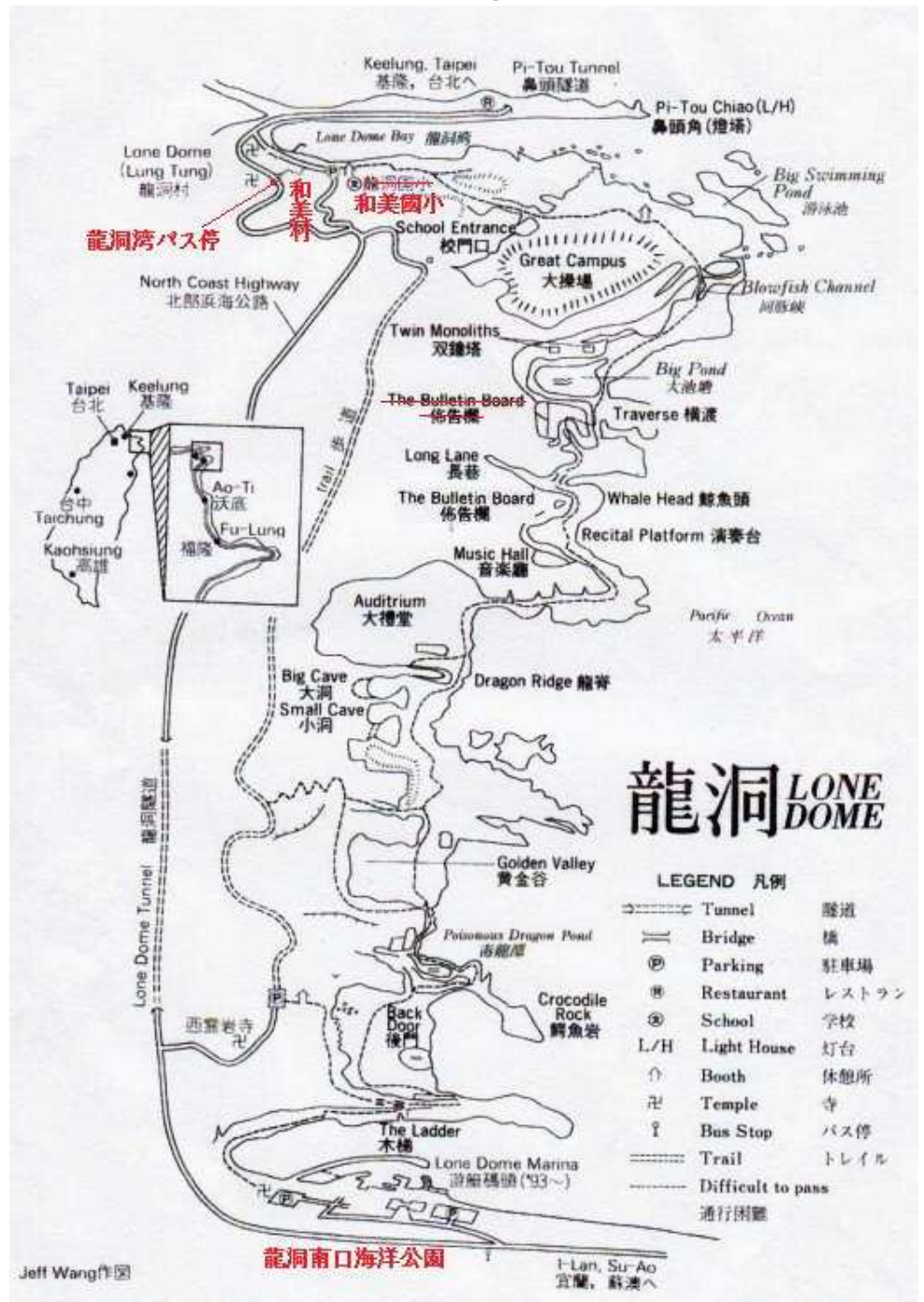
龍洞の岩場は、台北の東約 50km 程の「東北角海岸國家風景區」の北端付近にあり、四稜砂岩という硬い砂岩でできた断崖が、海岸線に沿って 1 km 以上に渡って続いている。高差は 30 から 60 m、多くはショートラインだが、マルチピッチのラインも何本かあり、多くのトラッドとスポーツクライミングルートが引かれている。ラインはクラック、フェイス、前傾、ルーフと何でも揃って入るが、全体的には垂直程度の壁が多い。

ギアは、クイック・ドロロー 15 本、ロープ 60 m、トラッド用にキャメロット 4 番まで 1 セットと、マスターカムまたはエイリアン数個、ワイヤーナッツ 1 セットあれば良いが、安心して登るにはキャメロット 2 セットが欲しい。後はリード&フォローで登った方が良いラインもあるので、セルフ用スリングと下降器があると良い。またヘルメットはあった方が安心。岩

の上部は浮石が多いように感じられ、岩の凹凸が大きいので、フォール時は怪我をする確率が高い。

他には、サングラスや日焼け止め、リップクリーム、さらに熱中症対策として、飲み水は多めに持っていきたい。海が穏やかなら遊泳もできるので、夏は当然水着を持参したい。晴れた日は、どこも気持ちは良いが、クライミングは日陰になった壁で登るのが良い。龍洞は全体的には東向きなので、午後になると陽が陰ってくる。地元のクライマーも日陰の壁を狙って登っているようである。

今回は「校門口」から「小洞」までの北半分だけしか見たり登ったりすることができなかったのですが、南半分の「黄金谷」や「後門」については、ネットからの情報である。以下、主なエリアを簡単に紹介する。



# 龍洞 LONE DOME

### LEGEND 凡例

--- Tunnel	隧道
== Bridge	橋
Ⓟ Parking	駐車場
Ⓜ Restaurant	レストラン
Ⓝ School	学校
L/H Light House	灯台
Ⓜ Booth	休憩所
Ⓜ Temple	寺
Ⓜ Bus Stop	バス停
--- Trail	トレイル
--- Difficult to pass	通行困難

Jeff Wang 作図

I-Lan, Su-Ao  
宜蘭, 蘇澳へ

### ○校門口 (School Gate or School Entrance)

和美國小から4から5分程度で行けるエリア。南側から見ると全貌が分かるが、中央の「校門口」の岩峰の右に高差のあまりない「門簷」と「後門走廊」、そして左に「人面岩」がある。易しいトラッドラインから12ノーマル程度のスポーツルートまでである。校門口の中央のアレート下のハングを越えて行くラインが「虎牙」である。ここは海が荒れて「横渡」が通れない時などや、家族で楽しむ時、また、他のエリアで登り、帰りにバスの時間調整にトライもできる。



### ○双鐘塔(Twin Monoliths or Clocktower)

岩の転がる「大操場」と呼ばれる海岸から、岩場に挟まれた「短巷」を過ぎると、小さな入り江で池のようになった「大池唐」を挟んで、2つ並んだ顕著な岩峰が右に見える。右塔のハング左からリップ上を右にトラヴァースして上がるのが、「ONE WAY TICKET(11a)」。今回はトライはしなかったが、見栄えのするラインである。右塔の裏手のフェイスにもルートが何本かある。ここまでは海が荒れても問題なく和美村に帰ることができる。



### ○長巷(Long Lane)

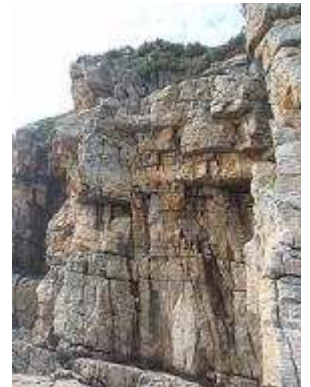
古いロープの張ってある「横渡 (トラヴァース)」を過ぎ、大テラスから獨木橋を渡ると大きなチムニー状の岩場「長巷」である。この中にも多くのルートがあり、夏でも日陰になるので良く登られているらしい。岩に挟まれているので、大きな落石があったら、ちょっと怖い感じである。

写真左の大きな割れ目が「長巷」、中央が「獨木橋フェイス」。遠く「鼻頭角」の岬が見える。

### ○佈告欄(Bulletin Board)

「長巷」から「鯨頭」間の幾つかのハングを持つ垂直のきれいなフェイスが「佈告欄」。全体的には垂直位だが、小さいルーフ状ハングが所々にあり、その部分が各ルートの核心になっている。

このフェイスは北東に面しており、早めに陽が陰るので、暑い日は「長巷」からこの「佈告欄」あたりで登るのが良い。



### ○鯨頭(Whale Head)

鯨の頭に似た岩が突き出しているため、この名がある。最後のハングを左から越えて行くトラッドライン「Sword」は人気のようで、来たクライマーは皆とりついていて、このラインはリード&フォローで登り、ラペルで降りるのが一般的のようである。

### ○演奏台(Recital Platform)

「鯨頭」の左に舞台のような形状の洞穴があり、左の白く長いフェイスが「結婚路線 (Wedding Route)」という龍洞入門者に人気のラインで、その左のアレートが「北東角」である。



## ○音楽廳(Music Hall)

「演奏台」とアレート「北東角」を挟んで左が「音楽廳(Music Hall)」という、下部が少々前傾した岩場で、ここから左へボルトプロテクションのショートルートが沢山ある。一部のボルトはリボルトがなされ安心して登れるが、一部は古いままのものもあるので注意したい。この付近はロケーションも良く、大テラスがあり、龍洞の北半分の中心的なエリアである。釣り人も多いので、トラブルの無いように心がけたい。



## ○大禮堂(Grand Auditorium)

巨大な半円状の岩壁。壁は大きいが特に目立った感じの岩ではなく、どのようなラインがあるのか遠望しただけでは分からない。あまり登られていないのではないかと。左手前に「小禮堂」という岩場があるが、今回確認してこなかった。トポでは5.11後半までのラインがあるようだ。

## ○龍脊 (Dragon Ridge)

長大な岩稜で、マルチ・ピッチがあるようだが詳細不明。下部にショートルートが何本か拓かれている。アプローチは、この岩場ぐらまでなら、校門口から来た方が近いかもしれない。

写真右の大きな岩稜が「龍脊」。写真の大きな洞穴は「大洞」。



## ○大洞(第一洞 First Cave or Big Cave)

「龍脊」の尾根の南側にある巨大な洞穴が「大洞」である。主に右側の前傾壁にラインが引かれているようだが、中央奥や左側にラインがあるかは不明。洞穴の下には上部から落ちてきた石や土砂が多量に堆積しており、クライミングに際しては、十分な注意が必要と思われる。アプローチは黄金谷小径を下るのが早い。

## ○小洞(第二洞 Second Cave or Small Cave)

「大洞」の南にある、トンネル状になった洞穴。大洞に比較すると非常に小さいが、状が崎の様なハングを越えて行くラインは面白そうである。アプローチは「大洞」と同様、黄金谷小径を下ると早い。



## ○黄金谷(Golden Valley)

岩場全体が金色であるため、この名が付いている。程良い前傾壁に、ハイグレードのスポーツルートも沢山拓かれているようである。アプローチは西霊岩寺先の南駐車場から龍洞岬遊歩道に入り、黄金谷小径を下るのが早い。バスの場合は、龍洞隧道南の西霊岩寺入り口あたりで降りてもらいたいと思われる。私たちもそのアプローチは歩いていないので、なんとも言えないが、良く分かなければ、和美村から龍洞岬遊歩道に入り、黄金谷小径を下るか、または、校門口から歩いて行っても行ける。

写真は、音楽廳の大テラスから遠望する「黄金谷」「後門」方面。



## ○後門(Back Door)

龍洞で一番南のエリア。「黄金谷」と同様、西霊岩寺の南駐車場から後門小径を下るのが早い。ここは高差はないが、多くのスポーツルートが拓かれているとのこと。龍洞の南にある「龍洞南口海洋公園」側から歩いて行けるようだが、アプローチの状態は詳細不明。「後門」と「黄金谷」間は地図では破線があり近いが、安全に行き来できるかは不明である。その場所は「キャット・ウォーク」と呼ばれているらしい。

## <大砲岩場情報>

### ●アクセス

基本的に MRT とバスを利用するのが良いが、行き方としては通りある。1つは、MRT の石牌駅からバスを利用する方法で、駅横のバス停から、「508 番」または「小 535 番(マイクロバス)」に乗車。バスの本数は多い。バスは街を離れ山腹を登って行くが、峠状になっている「惇叙商工高校」バス停で下車。新北投温泉方面(二股になっているが、右の道路)へ右に温泉の湧く「龍鳳谷硫黄谷遊憩区」を見ながら 10 分程下ると、東屋の先、車道左に黄色い標識がある。岩場はここを入り、坂を登りすぐである。

もう 1 つは、新北投駅からバスを利用する方法があるが、バスの本数が少ないらしく、石牌駅からがおすすめである。



### ●大砲岩概要

基本的に、この岩場は登攀禁止である。入口の黄色い標識には「岩登り禁止」と中国語と英語で書かれている。しかしながら、台北にある登山用品店で確認したところ、日本でも良くあるが、「黙認状態」という感じで、登っても問題ないとのことだった。黙認とはいえ、自己責任で登るのは当然のこととして、「陽明山国立公園」内であるため、草木などの採集等は禁止であるので、節度ある利用を心がけたい。

岩質は安山岩で砂岩に近い部分もある。ハングは少なく、アレットと垂直の細かなフェイスが主体で、楽しめそうなクラックも見受けられ、グレードは 5.13 程度までである。基本的にトップロープで、リードルートは無いが、岩の上にはしっかりとトップロープ用ケミカル・アンカーが埋めてある。高差は 7 から 8 m というところなので、ハイボルダーとしても考えられるが、下が必ずしも安定してはいないので、ボルダーをするならトラヴァース程度にしておいた方が怪我をして問題を起こすより良いのではないかと。

台北中心部から近く 1 時間程度で行けて便利だが、1 日時間があるなら、「龍洞」のクライミングに行くことをお勧めする。

